iVision News Letter -North China Block -

発行 上海菱威深信息技術有限公司北京分公司　　北京発［2009年9月］Vol.3

❑ ご挨拶 ～「場所経営」の重要性～
❑ ITマネジメント－「利用する」「構築する」「維持する」
❑ 「iVision ITインフラ運用簡易クリニックサービス」開始

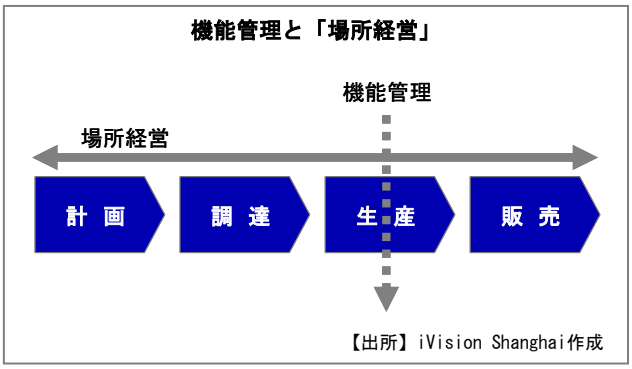
■ ご挨拶 ～「場所経営」の重要性～

間もなく国慶節。今年は建国 60 周年、干支（十干十二支）が一巡する特別な年である。これからの 60 年を展望すると、間違いなく世界一の市場としての中国が浮かび上がってくるであろう。

中国がドルを稼ぐところ（生産拠点）から、人民元を稼ぐところ（販売拠点）へと変わるにつれ、日系企業をはじめとする外資系企業は、現地での経営のあり方、本社からみたときの統括のあり方を変えざるを得ない。

生産拠点であるとき、それはサプライチェーンの一つの機能であり、製品別ライン（事業部ライン）によるチェーン全体の最適化マネジメントが有効である。生産拠点は一つの機能としての役割を発揮、たとえば生産品質の向上や生産効率化に注力すればよい。一つの法人が複数の生産拠点を有している場合でも、地域統括管理といえば間接部門業務の共通化・シェアードサービス化が中心である。

しかしながら、これまでの生産拠点を拡充して市場にも対応する販売拠点機能も備えようとする場合、経営や管理のあり方を組み直す必要があろう。市場に対応するためには、生産のみならず、研究開発（応用開発）やマーケティング、販売管理など、基本的に現地ですべての機能（要素）をまかなう必要がでてくるのであり、機能（要素）管理ではなく、「場所経営」の考え方に立つ必要がある。その究極の姿は第二本社である。



拠点の機能拡充に伴い、企業活動と「場所」との接点が圧倒的に拡大し、経営判断のための情報量が増大する。データや言葉などの形式化された情報は限定的なものであり、判断のためには「場所」に根ざした肌感覚というものがきわめて重要になる。したがって、「場所」に権限が委譲される、「場所」に相応の権限を有した人材が配置されることがまずは必要になる。

どこの「場所」を攻めるのかといった戦略、経営理念などその企業のアイデンティティに関わる方針は本社が主導・統括することになろうが、それ以外の部分については、ある程度のまとまりとして「場所経営」の裁量を認めなければ、中国において生産から販売までを展開することは難しい。

ＩＴガバナンスやＩＴマネジメントにおいても同様である。その企業の存在あるいはアイデンティティに関わる最低限度の方針と現地に委ねるところの線引きが必要であろう。

私どもはまだまだ規模が小さく、「場所経営」などというレベルにまで達していないが、「場所」ですべての機能を完結するという点においては「場所経営」的な感覚が求められると考えている。自らのことも踏まえて、「場所経営」として求められるＩＴマネジメント、あるいは足元のＩＴについて考えてみたいと思う。

【筆者】松下 隆一（まつした りゅういち）　上海菱威深信息技術有限公司 董事・副総経理、北京分公司総経理

本ニュースレターに執筆された内容は、筆者の個人的見解であり、上海菱威深信息技術有限公司としての公式見解ではありません。

■ ITマネジメントー「利用する」「構築する」「維持する」

「ＩＴマネジメント」という言葉を耳にするようになって久しいが、なぜ「ＩＴ」に「マネジメント」が必要なのかをあらためて考えてみたい。

景気回復局面を迎えると企業の投資は活発化する。ＩＴ投資も同様だ。好景気になると事業の拡大・成長テンポに合わせるように大型のＩＴ投資が急がれ、企業のＩＴが肥大化する。そして、景気が後退すると、主にコスト削減という観点から、ＩＴマネジメントということが注目を集めることになる。

リーマンショックから１年を経て、世界的に景気回復の萌芽がみられるようになり、中国がその回復を牽引しているように思う。そこで、次なる景気回復・拡大局面においてもＩＴマネジメントという観点を忘れることのないよう、いま一度、ＩＴマネジメントを考えておきたい。

そもそも、ＩＴマネジメントとは具体的に何を指すのだろうか。筆者は、情報システムを「利用する」「構築する」「維持する」のバランスをとることであると考えている。

システムを「利用する」主体はいうまでもなくユーザであるが、ユーザの要望・要件をすべて満たすシステムが使い勝手のよいシステムであるとは限らない。むしろ過度な機能や自由度が提供され、逆効果となってしまうケースも多い。まずは業務を改善するという視点が不可欠だ。オペレーションフローを改善する、その改善されたフローに基づきヒューマンオペレーションをやってみる。ヒューマンオペレーションで改善効果がでないオペレーションフローをシステム化したところで、その効果は絶対に期待できない。

次に、システムを「構築する」主体は情報システム部門であることが多いと思われるが、上述のようにユーザの意見に押され過ぎないということに加えて、とくにコスト面からシステムのライフサイクルを考えることが必要である。「維持する」段階でライフサイクルコストの削減策を考えても打ち手は限られてくる。この二点を軽視してしまうと、結果として、情報システム部門はユーザから信頼を失うことになり、「維持する」ことに苦しむことになってしまう。また、流行の専門技術用語に踊らされることなく、新しい技術の採用も慎重に行いたい。

システムを「維持する」主体も情報システム部門である。まずは、物理的（ハードウェアやデータセンタ）、論理的（ソフトウェア、人、組織）なセキュリティ確保が最優先となろう。このセキュリティが脅かされたとき、システムだけではなく、企業の存在意義そのものが問われかねない。また、システムの維持管理などにおいては、決められたことを決められた手順で確実に行うことが大切であるが、これを徹底させるには相当の経験とノウハウが必要だ。

これら三要素のバランスをうまくとり、システムが提供するバリューを高めていくことがＩＴマネジメントである。誤解を恐れずに言えば、それぞれの要素に対する満足度が 60～70%程度だと、全体としてみたとき、満足度が 100%に近づくようにも思われる。誤解を恐れずに、と断ったのは、「利用する」「構築する」「維持する」それぞれの要素のなかには、セキュリティなどポリシーに照らし合わせて 60%では満足することのできない構成要素もあるからである。

私どもも、「利用する」「構築する」「維持する」のバランスについて十分に考慮しながら、お客様にＩＴサービスを提供させていただきたいと考えている。

【筆者】筒井 英樹（つつい ひでき） 上海菱威深信息技術有限公司 アウトソーシング事業部副部長

■ 「iVision ITインフラ運用 簡易クリニックサービス」開始

iVision ではこのたび、前述の「維持する」ことに焦点を当て、ＩＴインフラ運用の簡易クリニックサービスを開始しました。

主にＩＴインフラのセキュリティ面を中心に、貴社のＩＴインフラ運用水準を診断させていただきます。具体的には、「iVision ＩＴインフラ運用 簡易クリニックシート」に基づき、お客様の情報システム担当の方へヒアリングをさせていただきます。このヒアリング結果をもとに、貴社の現状を平均水準および iVision が考える水準と比較し、必要に応じて改善案をご提案させていただきます。

情報システム担当の方へのヒアリングは 30 分ほどですので、お気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ窓口】 電話：010-6590-9830 担当：賀麗娜（内線 102）

本ニュースレターに執筆された内容は、筆者の個人的見解であり、上海菱威深信息技術有限公司としての公式見解ではありません。